

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-49	高 等 学 校	国 語	現 代 の 国 語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
143 筑摩	現国 712	現代の国語		

## 1. 編修の基本方針

### ● 教科書の理念

この教科書は、「教育基本法」「学校教育法」の規定や理念を踏まえ、特に以下の点に留意して編修しました。

- ①豊かな人間性・創造性を身につけさせる。
- ②平和で民主的な国家及び社会の形成者たる人物を育成する。
- ③社会において果たさなければならない使命を自覚させる。
- ④それぞれの個性に応じた進路を決定するのに必要な一般的な教養を高める。
- ⑤社会について、広く深い理解と健全な批判力を養う。
- ⑥社会の発展に寄与する態度を養う。

### ● 教材の選定と配列

教育基本法第2条の1～5号に示された教育の目標を達成するために必要な教材を精選して掲載しました。教材の選定と配列にあたっては、次のような点に意を用いました。

- ①論理的思考力を身につけるとともに、さまざまな観点から物事を捉えたり対象化したりすることで、周囲や社会について健全な批判力を養うことのできる教材を選定しました。
- ②適切にことばや文章を用いて表現することのできる力を養い、他者と深く、また幅広いコミュニケーションをはかる意欲を喚起する教材を選定しました。
- ③幅広いテーマを取り上げることで、深い知識と教養を身につけ、生涯にわたって主体的・対話的で深い学びへと導かれるよう意を払いました。
- ④教材がたがいに有機的に繋がり、学習が進むにつれ、国語の資質および能力が的確に身につけていくことを意識して教材を配列しました。
- ⑤「思考力・判断力・表現力」の3領域のうち、「話すこと・聞くこと」については3単元、「書くこと」については3単元、「読むこと」については4単元と、単元をバランス良く配置し、効果的に言語能力を高めることができるよう配列しました。

### ● 学習を支える工夫

各単元および教材を通じて、高校生の資質・能力を高め、主体的・対話的で深い学びへと導くために、次のような点に意を払いました。

- ①単元の目標：単元の冒頭に、それぞれの単元を通じて身につけたい資質・能力を端的に示しました。また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の、どの領域をのばす単元であるかを明示しました。
- ②視点：教材の冒頭に、身につけたい資質・能力について、教材の着目すべき点を掲げました。
- ③学習：教材の末尾に「課題」「言語活動」「確認」「重要漢字」を設け、資質・能力を身につけるにあたって、教材のどのような点を活用することができるかを明示しました。
- ④実践：単元の末尾に、言語能力を高め、主体的・対話的で深い学びへと導く具体的な活動を示しました。
- ⑤学習に役立つデジタル・コンテンツを適宜用意いたしました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容と教育基本法第二条第一号から第五号との対応を下記に示します。

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
1) 問うこと、語ること ・ 境目 (川上弘美) ・ サイエンスの視点、アートの視点 (齋藤亜矢) 【参考】一般化のワナ (苫野一徳)	「境目」や「サイエンスの視点、アートの視点」および「実践 『質問する力』を育てよう」を通して、探究の原動力でもある「問い」を手掛かりに幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うようにしました。(第1号)	p9~28
2) 評論文への招待 ・ ことばとは何か (内田樹) ・ デジタル社会 (黒崎政男) ・ システムと変異 (中屋敷均)	「ことばとは何か」でことばの力を、また「デジタル社会」で現代社会の仕組みを読み取り、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うようにしました。また「システムと変異」において自然の働きのダイナミックさに目を向けることで、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うようにしました。(3号、4号)	p29~54
3) ことばで伝える思いと考え ・ ことばがつくる女と男 (中村桃子) ・ 身体、この遠きもの (鷲田清一) ・ 贈り物と商品の違い (松村圭一郎)	「ことばがつくる女と男」ではジェンダーについて、「身体、この遠きもの」では人間の身体の抽象性について、「贈り物と商品の違い」ではコミュニケーションの在り方について考えることで、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うようにしました。(3号)	p55~84
4) 情報と推論 ・ わかっていること、いないこと (堀正岳) ・ 兎が自分でつづって語る生活の話 (シートン)	「わかっていること、いないこと」では世界の温暖化について、「兎が自分でつづって語る生活の話」では生物の観察を綴った文章から、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うようにしました。(4号)	p85~104
5) 「話し合い」から「議論」へ ・ 誰かの靴を履いてみること (ブレイディみかこ) ・ 〈私〉時代のデモクラシー (宇野重規)	「誰かの靴を履いてみること」では著者のボランティア活動の記録から、「〈私〉時代のデモクラシー」では現代社会における民主主義の在り方を論じた著者の考えを学ぶことで、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、自他の敬愛と協力を重んじ、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うようにしました。(1号、3号)	p105~126
6) 「根拠」から「主張」へ ・ 魔術化する科学技術 (若林幹夫) ・ 未来は存在しない (野矢茂樹) ・ マルジャーナの知恵 (岩井克人)	「魔術化する科学技術」では科学への態度について、「未来は存在しない」では哲学的な思考について、「マルジャーナの知恵」では経済における差異の価値についての筆者の論考を通じて、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うようにしました。(1号)	p127~105

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
7) 伝えること、受け止めること  ・ポスト真実時代のジャーナリズム (国谷裕子) ・会話と対話 (長田弘) ・記憶する身体 (伊藤亜紗)	「ポスト真実時代のジャーナリズム」および「会話と対話」では、真摯なコミュニケーションの大切さを学び「記憶する身体」では障害をもつ人から見た世界のありように関心を寄せることで、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うことと、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うようにしました。(2号、3号)	p151~174
8) 表現のみがき方  ・贅沢の条件 (山田登世子) ・瓦を解かないこと (堀江敏幸)	「贅沢の条件」では近代以前と以後の人間のありようを比較し、「瓦を解かないこと」では日本語のもつ重層性を確認することで、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。(第5号)	p175~192
9) 主張の論理的な伝え方  ・来るべき民主主義 (國分功一郎) ・主体という物語 (小坂井敏晶)	「来るべき民主主義」では民主主義のありようを哲学者のことばを通じて学ぶことで、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うようにしました。「主体という物語」では「主体」という概念の危うさを学ぶことで個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うようにしました。また、「生活の中のことば—手紙・案内」や「宣伝のことば—ポップ・広告」などの言語活動を通じて職業および生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うようにしました。(2号、3号)	p193~210
10) 複眼的な視点  ・開かれた文化 (岡真理) ・リスク社会とその希望 (大澤真幸) ・名づけと所有 (西谷修) 【参考】過去はどこに行っちゃったの? (野家啓一・永井均)	「開かれた文化」では文化相対主義の真の意味について学ぶことで、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うようにしました。「リスク社会とその希望」においては現代社会における「リスク」のありようについて、「名づけと所有」においては「名づけ」という行為の意味についてかんがえることで、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に画し、その発展に寄与する態度を養うようにしました。(3号、5号)	p211~241

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・中学校までの学習内容の成果を発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健やかな身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うために、教材および「実践」などの言語活動におけるテーマや内容に意を用いました。(学校教育法第51条第一号)
- ・「実践」における言語活動および「読書案内」で紹介した書籍、「要約作成のポイント」などのコラムを通して、社会において果たさなければならない使命の自覚に基づき、個性に応じて将来の進路を決定させ、一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させることに意を払いました。(学校教育法第51条第二号)
- ・現代社会をテーマとする文章を扱い、また、複数の資料を比較して読むことにより、個性の確立に努めるとともに、社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うようにしました。(学校教育法第51条第三号)
- ・教材にはユニバーサル・フォントを用いて、多くの人の読みやすい紙面づくりに配慮しました。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時間数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102—49	高 等 学 校	国 語	現 代 の 国 語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※ 教 科 書 名		
143 筑摩	現国 712	現代の国語		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

学習指導要領の総則および「現代の国語」に掲げられた目標を効果的に達成するために、特に以下の点に留意して編集しました。

- ①育成したい資質・能力を明確化した単元構成 単元は、生徒に身につけさせたい「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力、人間性」をもとに構成しました。「思考力・判断力・表現力」については、「書くこと」「読むこと」の、どの領域に関する言語能力を身につけたいかを分かりやすく示しました。

また単元ごとに「単元の目標」を示し、生徒が各単元を通じて、どのような資質・能力を身につけることができるのか、見通しを立てたり、学習後の振り返りを行ったりすることができるようにしました。掲載した教材にはそれぞれ冒頭に「視点」を示し、各教材を通じて身につけたい「知識・技能」および「思考力・判断力・表現力」を意識的に学習できるようにしました。

- ②発達段階に応じた教材を厳選 生徒の心身の発達段階を十分に考慮して、高校教育の基礎を固め、さらに後続する「論理国語」への移行が円滑にできるよう、親しみやすい教材から、問題意識の鮮明な教材まで厳選して掲載しました。また、教材として適度な長さで、なおかつ奥行きのある文章を選びすぎりました。
- ③「主体的・対話的で深い学び」の実現を促す「実践」 全ての単元の末尾に「実践」を示し、単元を通して、「主体的・対話的で深い学び」を行うことができるようにしました。
- ④学習者の自学自習に便利な工夫 教材の理解を助けるために、脚問を付して、文脈を的確に捉えることができるようにしました。また「学習」には「確認」を設け、教材の内容を正確に捉えることができるようにしました。各見開きに重要漢字・語句を、「学習」には「重要漢字」を付し、生徒の語彙を増やすことができるように工夫しました。
- ⑤読書指導の充実 「学びに向かう力、人間性」を支える工夫として、読書の意義を理解できるように適宜「読書案内」を設け、また教材ごとに、著者の主な著書を紹介しました。
- ⑥誌面の工夫 全体に見やすいレイアウトとなるよう配慮するとともに、学習の効率化と活性化を図るために多色刷りを用い、必要な図版や地図などを適宜カラーで掲載しました。また、多くの生徒の読みやすさに配慮して、ユニバーサル・デザイン・フォントを用いました。

⑦デジタル・コンテンツ 学習を深める手立ての一つとして、教材に関するインターネット上の情報を適宜示し、二次元コードを用いて、情報を示したウェブページを掲載しました。

## 2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	実践	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
1) 問うこと、語ること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 境目</li> <li>・ サイエンスの視点、アートの視点</li> </ul> 《参考》一般化のワナ	「質問する力」を育てよう	(1) ア,イ,ウ (2) ア,イ	A ア	p9~28	6
2) 評論文への招待	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ことばとは何か</li> <li>・ デジタル社会</li> <li>・ システムと変異</li> </ul> ◆評論読解のポイント	評論文の一節を引用し、自分の意見を述べよう	(1) ア,ウ,エ,オ,カ (2) ア,ウ	C ア	p29~54	5
3) ことばで伝える思いと考え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ことばがつくる女と男</li> <li>・ 身体、この遠きもの</li> <li>・ 贈り物と商品の違い</li> </ul> ◆要約作成のポイント	メモ・ノートの取り方・活かし方を学ぼう	(1) ア,ウ,エ,オ,カ (2) イ,オ	B ア,イ,ウ	p55~84	10
4) 情報と推論	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わかっていること、いないこと</li> <li>・ 兎が自分で綴って語る生活の話</li> </ul> ◆グラフ その歴史	社会を作ることば——情報の整理と活用	(1) ウ (2) ウ,エ	C ア,イ	p85~104	5
5) 「話し合い」から「議論」へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誰かの靴を履いてみる</li> <li>・ 〈私〉時代のデモクラシー</li> </ul> 【読書案内】この場で重なることばと声	「議論する力」を育てよう	(1) ア,イ,ウ (2) ア (3) ア	A ア,イ,エ,オ	p105~126	7
6) 「根拠」から「主張」へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 魔術化する科学技術</li> <li>・ 未来は存在しない</li> <li>・ マルジャーナの知恵</li> </ul> 【読書案内】思考を鍛える	議論の前提を明確化しよう	(1) ウ,オ (2) ア,オ (3) ア	C ア	p127~p150	5



図書の構成・内容			学習指導要領の内容		該当箇所	配当時間数
単元名	教材名	実践	知識・技能	思考力・判断力・表現力		
7) 伝えること、受け止めること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスト真実時代のジャーナリズム</li> <li>・会話と対話</li> <li>・記憶する体</li> </ul>	インタビューの作法／ビブリオバトルに挑戦しよう	(1) ア,イ,ウ,カ (2) イ,エ	A ア,ウ,エ,オ	p150 ~174	7
8) 表現のみがき方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・贅沢の条件</li> <li>・瓦を解かないこと</li> </ul>	生活の中のことば——手紙・案内／宣伝のことば——ポップ・広告	(1) ア,イ,ウ,エ,オ	B ア,イ,エ	p175 ~192	10
9) 主張の論理的な伝え方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来るべき民主主義</li> <li>・主体という物語</li> <li>【読書案内】書くことが「世界」を創る</li> </ul>	意見を文章にまとめてみよう	(1) ア,ウ,オ (2) ア,イ,エ (3) ア	B ア,イ,ウ,エ	p193 ~210	10
10) 複眼的な視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開かれた文化</li> <li>・リスク社会とその希望</li> <li>・名づけと所有</li> <li>《参考》過去はどこに行っちゃったの？</li> </ul>	対比の働きを理解しよう	(1) ア,ウ,エ (2) ウ,エ	C ア,イ	p211 ~241	5

合計 70